

わが家のアイドル

広報しもだ 平成27年5月1日発行 ● 毎月1回発行 ● 下田市役所



加増野にお住まいの

小林 貴博さん・みかさんの

こうき
長男 **洸貴**くん (2歳11か月)

はやと
次男 **隼貴**くん (0歳5か月)

Hi!! ぼくこうき!!

大じい、大ばあが大好きなんだ!!

暴れん坊だけど、

いつまでも優しい目で

見守っていてね

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。

シリーズ伝建調査 9

意匠 (デザイン)
—窓と石—

窓のかたち

下田市街地の伝統的な民家や商家を見ると、防風や防火、住み易さの工夫などの中にも、建てられた時代の流行や、家主の好みを反映した意匠 (デザイン) を見出すことができます。

建物の外観に大きな変化を与えるのが窓です。江戸時代の伝統を受け継いだ明治時代の建物は、総じて質実剛健で窓は小さく、紙障子が用いられ、商家や蔵では防犯用の鉄棒が差し込まれていました。下田町で窓に板硝子が使われ始めたのは大正から昭和初期で、町のあちこちに近代建築が建ち始め、「上げ下げ窓」と呼ばれる二連の硝子をスライドさせて開閉する洋風の窓が見られるようになります。昭和になると板硝子が普及し、硝子窓が広く用いられる

ようになります。俗に「おたふく (お多福) 窓」と呼ばれる窓形式が流行するのこの頃で、窓硝子によって下田の家々の室内は明るくなり、過ごしやすくなっていったと考えられます。



おたふく窓など

上げ下げ窓 (大正～昭和)

石のかたち

下田では大正中頃まで建物に伊豆石が多用されました。民家の石造部分を観察すると、通りに面した部分には縞模様の美しい石を用い、目地を丁寧に溝切り加工しているのがわかります。また、入口脇の戸袋を石で造ったり、腰壁に磨かれた青石を用いてアクセントとしている例もあり、かつての職人の技と、当時の美意識を今日に伝えています。



美しく仕上げられた腰壁

石造りの戸袋

問合せ先

生涯学習課社会教育係

☎ 25055

● 〒415-8501 下田市東本郷一丁目5番18号 ☎ (22)2211



2020年までの核兵器廃絶を私たちの手で!!

下田市は核兵器の廃絶と世界平和の実現を願い、平成21年に「下田市平和都市宣言」を行いました。今年、被爆70周年を迎えるにあたり、当市においても平和への取組に努めていきます。

平和首長会議国内加盟都市会議ホームページ <http://www.mayorsforpeace.org/jp/index.html>